

「真つ暗な道を、登る。」

テーマ..暗闇

脚本 流星

・石井 健司

男 大学生 就活中 夏美とは高校からの友人

・佐々木 夏美

女 大学生 就活中

## SE フクロウが鳴いている

健司 なあ、本当に登んの？真っ暗じゃん。

夏美 あつたり前でしょ、日の出を見るならこの時間から登らないと。

健司 でも、スーッだし。革靴だし。

健司 (Σ) 真っ暗な登山道。就活の帰りに、何をしているんだと我に返っていた。

夏美 面接で喋ることないから、何かしたいつて言い出したの、アンタでしょ。

健司 だって……面接官が「うわあ、こいつ個性ないなあ」って顔してきてさあ。留学とかボランテニアとか何かしないとダメかなって……でも登山はねーだろ、登山はよお。

夏美 登山くらいぶっ飛んだことやったほうがいいの、インパクトが大事なんだから

健司 内定決まってる夏美はいいよな、気楽でさ。俺なんか、やっぱダメ人間なんだって思いやられるよ。

## SE ライトが消える

健司 おい、夏美！ライト消すなよ。前も後ろも真っ暗じゃん。

夏美 下ばっか見てるからでしょ、空、意外と明るいのよ。ほら。

健司 気持ち明るいなってくらいだろ。この明るさじゃ歩けねーよ。

夏美 別に無理して歩かなくたっていいじゃん。たまには都会じゃ見えない夜空を見るのもいいでしょ？自然に囲まれてさ。

健司 (Σ) そういうと夏美はスーツのまま地面に寝転んだ。仕方なく俺も同じように寝転ぶと木々の間から夜空が覗いていた。

夏美 別に、日の出とか、就活とか。ほんとはどうでもいい。ねえ、健司。私は健司のこゝと駄目人間だなんて、思わないよ。

健司 …やっぱ、朝日。見たいなあ。